**■専門部会からの報告**

**資料４**

**令和６年度　子ども支援部会　報告書**

|  |
| --- |
| **第１回子ども支援部会** |
| 日時：令和６年５月２０日（月）　午後１時３０分 |
| 会場：品川介護福祉専門学校５階　特別講習室 |
| 概要：１　開会のあいさつ・出席者紹介 |
| ２　品川区地域自立支援協議会および子ども支援部会について |
| 事務局から「品川区地域自立支援協議会」および「子ども支援部会」の設置目的、体系および開催スケジュールを説明した。 |
| ３　テーマ検討について |
| 障害児福祉計画に含まれている「福祉・保健・教育等と連携強  化し、きめ細やかな支援を行う」の内容について議論を行う。 |
| （１）連携を行うにあたって前提となる、所属する事業内容や  役割について各出席者から説明を行った。  （２）２事例について連携状況を確認  　　①ネグレクト対応に関する事例  　　（概要）午前３時～午後３時で就労している父親が特別支  援学校へ通学するこどもを家で一人にさせてい  る。てんかんの持病があり、在宅時に発作で転倒  したときに負った思われる受傷等もあり。父親は  自宅で問題なく過ごせているとの認識。  　　　　　　　　（対応）相談支援、通所事業所、特別支援学校、子ども家  庭支援センター、障害者支援課で連携。支援会議  を開くなど情報共有しながら対応を行った。４月  に区外へ転居したため対応は終了。  　　②支援機関の引継ぎに関する事例  　　（概要）４子と両親の６人家族。上３子が療育を利用。  一番下の子は１歳。上２子が保護者の判断で療育  から保育園へ移行し、３子の保育所等訪問支援を  開始。両親の発達の遅れに対する認識の難しさあ  り。  　　　　　　　　（対応）保育園を中心にそれぞれの機関が関わりを持つ。  保護者がどこにも相談なく療育を辞めて保育園入  園を決め、４子共に保育園に在籍となったが、保  育所等訪問支援で相談支援が関わりを継続してい  ることもあり現状については把握することはでき  ている。これまで４子に関わる関係機関全体で連  携する機会がない状況であったため、療育から保  育園に移行した際に、どこまで情報が保育園に伝  わっていたのか確認があった。 |
| （３）確認できたこと、課題等について  　　　　　　　　　①関係機関の連携がとれ、情報共有できていれば対応が  とりやすい。  ②相談支援事業所によって、関係機関との関わる密度に  違いがある。  ③保護者より情報共有をしてほしくない旨の話があった  　際の対応方法  　　　　　　　　　④複数の機関が連携する際にどこが窓口となるか |
|  |
| ４　その他・次回日程（予定） |
| ・次回は９月を予定。 |
| ・次回テーマについて  　　　　　　　引き続き事例をもとに連携の在り方について議論を行う。 |
| 出席：部会長　品川区旗の台障害児者相談支援センター施設長  　　　　部会員　品川児童学園１名  相談支援９事業所１３名（２事業所２名欠席）  　　　　　　　　保健センター３センター３名  　　　　　　　　子ども家庭支援センター１名  　　　　　　　　保育施設運営課１名  　　　　　　　　教育総合支援センター３名（１名欠席）　　出席者２２名 |